七不思儀葛飾譚

巻七篇上下

へ13
2686
7

特
へ13
2686
7

八九とも有ぞ七を七ゝ定ゝ兆不測あれど先世の始ゝ神世七代天ゝ七政北斗七星
國ゝ畿外を七道ゝ分つ人日ゝ正月七日安産祝ふも七夜ゝり七丸の著袴歯を
染る初ゝ集る七所鉄將來有卦ゝ七年七福神給ふ財も七寶充満甲子の供物も
七色菓子浦ゝ七浦七笑壽鯨の大漁ゝ七里潟澤疥癬の傳染のも七筵七布を
空て君を待ば蚊屋の外ゝて七の鐘七坊主七小町瓶を傾る七人猩々釜を蹴湯て
千家の七車七種の盆置笹相狭子の七道具と箕やうべ七日七夜さ指を折
力車ゝの七車積とも尽ぬ七の數是皆七ゝ限らぬを七と定める古人の料見
解ぬ車ゝとゝ〳〵ぬゝ〳〵て〳〵不思議ゝ七奇七編を今年の秋七月七日捌機の
手向の歌をかゝ次手ゝ不圖筆を把初ゝ

乙丑中元前一日脱藁

丁卯始春發市

柳亭種彦

木邊須臾六多櫛

多岐都比賣命

轉

厚

酒屋

つゞき

それの日
あくけれが
つまこと
よふふ

そのの日か
ゑれやうあこと

○さてのぶりねやぐらぶとうもぶさんに
なるとこいぐくようくあとりきこうう
ようやふんらもくきーものをあとをと
どくまだれがりーよあまくさろきろくく
こりまるぶとりこそよこぐくけあとこ
ぶごんぶんとらふものわけがあやーと
ちりんどもつていうそぶこうのりとし
うちこいれるぶそぶとりくぶのもくと
ふてこりくぶめこをるまこのーとのちおこ
ゑまさこれがといろこいろもいとれイ
ゑんちせーふどうのざこうろちくこれれ
ちーころくれとまーくくるぶとあり
あくふあこあーもけうとく
むりくーよまくこくこれろこ
とくきぶまりこのうく
こぶくれあくるぶかこ
いるこくこうつぶーみ
くりこのこまのめと
あやーけれがよのくぶ母の
むこわるくーくもくー
くくくぶーりけこ及ぶを
まやこくくとーもくくち
むくりくふまにくくかりち
どのちくをもこれがもくちわ
くこちくりこかくくあくけこも
のくまけるをつはふあくく人
ぶくとのまぶくをこまをくろう
あをちしまのくのとちや
くくぶのこくのこくこそ

ちぐ六
ふくろう
ひとり
くくくくこくや
しあぶをくくり
けるけのく
ちくるくちち
その日あり
のくこくよせて
られ

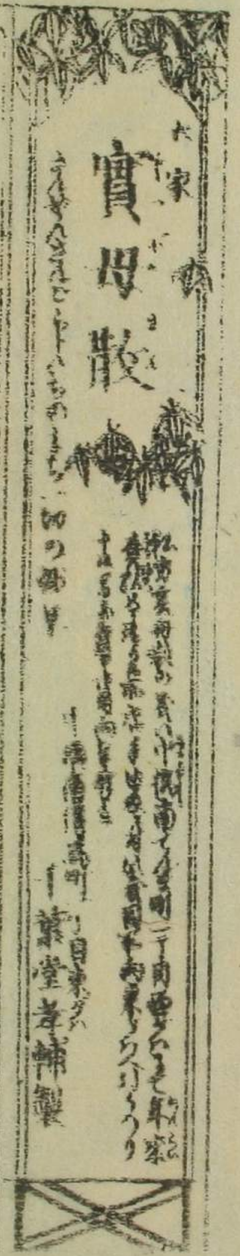
ようくそのこくく
くくくくれ
らくぶくせ
ちりくぶき
ようり

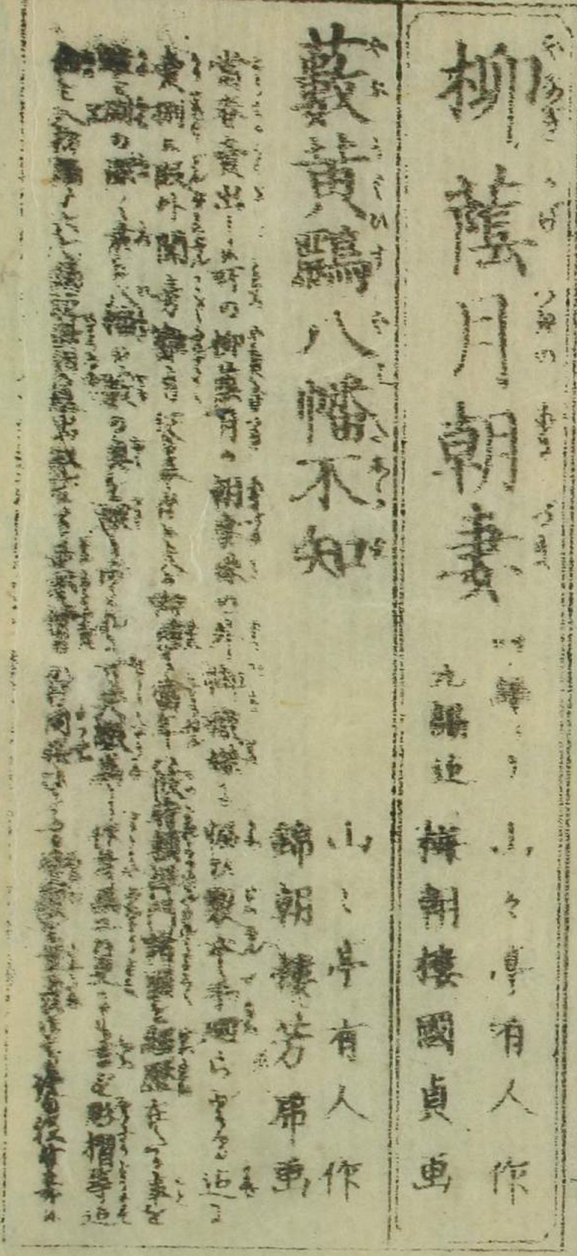
ちくくのぶくふ
つくれくあく
くくくいまく
ようくくう
ぶんと
くくくぶ
ふ

いりしくきくろく
くくれるまちの
くくくいーらぶけ
くどくまくくく
きぶくこ

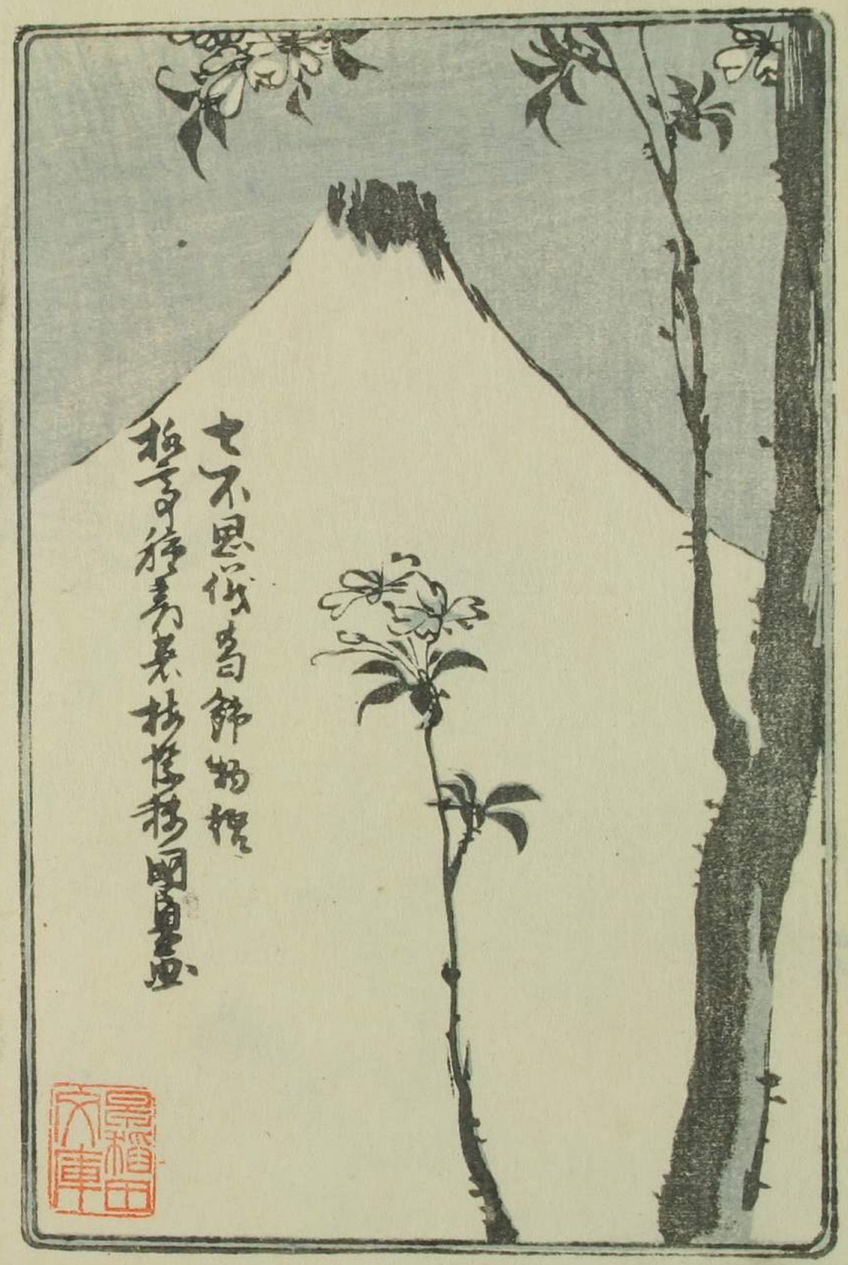
くーくくこ
くくくくこ
くくくくこ
くく

種彦作 國貞画


實母散
東堂孝輔製


柳蔭月朝書
山々亭有人作
元鶴迯 梅朝樓國貞画
藪黄鶯八幡不知
山々亭有人作
錦朝樓芳席画

七編下


七不思議髙飾物語
極楽師美枝筆移國貞画

三
高飾物語 巻一

味
檀

味

種彦著

國貞画

鼠祠通夜譚

一名 梁上竊語

種彦作 国貞画

版主 紅英堂

明治四年辛未陽春開板 標目

厚化粧葛西塩田 種彦作 国貞画
室町源氏胡蝶巻 種彦作 国貞画
鼠祠通夜譚 種彦作 国貞画
童謡妙々東 種彦作 国貞画
薄倖幼日記 春水作 国貞画
八編芳葛飾譚 種彦作 国貞画
新局九尾傳 春水作 国貞画
筆海四國聞書 種彦作 国貞画
明鳥黒塗画鞦韆 種彦作 国貞画
花封蒼玉章 種彦作 国貞画
八犬傳犬の双紙 柳亭作 国政画

南傳馬町壹丁目 鶴屋吉藏板